

生涯学習

No.548

かおり高い

文化のまち

研修総会に参加して



教育長職務代理者 北原 三千代

私たち教育委員は、年に一度、県内全市町村の教育長と教育委員四百名余りが集う「長野県市町村教育委員会研修総会」に参加しています。本年度は十月十一日に飯田市文化会館で開催されました。

研修総会は、全体で行う総会と講演会の他、各テーマ毎に五つの分散会があり、本年度は、下諏訪町が第二分散会の発表及び司会・進行を担当させていたいただきました。数十年に一度の機会です。

分散会ではテーマを「学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てる体制づくり」と

し、六月下旬より教育長はじめ全委員で準備に入り、当町の二つのコミュニティスクール(以下CS)の活動について発表しました。

CSとは、子どもたちの豊かな成長のために、学校と保護者、地域の皆さんが一体となって「地域とともにある学校づくり」を進めていく組織で、現在下諏訪町には、下諏訪中学校区を中心にした「なぎがまCS」と下諏訪社中学校区を中心にした「ノース下諏訪ネットワーク」の二つがあります。

今回は、それぞれのCSが取り組む、学習支援・見守りボランティア・読み聞かせ以下様々な活動の様子と、二つのCSが

協働で取り組む荒汐部屋交流、防災教育などの実践を中心に発表しました。

分散会への参加者は百三十人余りに上り、CSへの他市町村委員の関心の高さを感じました。質疑応答では、

○ CS活動の評価とそれに伴う地域の変化は？

年二回の報告会と意見交換により次につなげています。自分たちも楽しく無理のない活動に努めた結果、多くの皆様のご協力が得られるようになりました。

○ 防災士百三十人の活動と子どもとの関わりは？

組織化され様々な災害に対応しています。特に子どもとの関わりを大切にし、総合防災訓練への参加を含め、町・地区・学校・CS単位で活動しています。漫才などの啓発活動もあります。

等、様々な意見交換ができました。

このように、多くの実践に基づいた発表を行うことができたことは、日ごろよりの皆様方の労を惜しまないご支援・ご協力と、その長年の積み重ねのおかげです。「町の未来を背負って立つ子どもを育てたい」という願いを学校、家庭、地域で共有しながら、一体となって子どもを育てる環境づくりが行われている表れだと感じています。

今、子どもたちの下校時には、「広報下諏訪」から子どもたちの声で見守りのお願い放送が流れています。この取り組みについて実際のチャイムと声を紹介したところ、大変大きな反響がありました。

今後とも、多くの地域の皆様との温かい学校支援と見守りが、子どもたちの笑顔に繋がることを願っています。



発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.shimosuwa.lg.jp

新年を迎えるにあたって



下諏訪中学校PTA会長

山田 一幸

私が普段大切にしているある言葉があります。それは「刻石流水」という言葉です。人から受けた恩義はどんな小さなことでも心の石に刻み、自分が人に施したことは水に流して忘れるといった意味の言葉です。昨年の一月、下諏訪中学校のPTA会長を引き受けることになり、本当に私に出来るのかと、とても不安だったことを覚えています。しかし、ここまで無事にPTA活動を行って来られたのも、様々な方々のサポートや、協力があったからこそだと思っています。私の心の石にしっかりと刻ませていただきます。



町の防災訓練に参加

その災害現場でも現地の方だけでは人手が足りず、多くのボランティアの方々が片付け

さて、下諏訪中学校では、平成三十年から「災害発生時における中学生の役割について」ということで、防災について様々な活動を行ってきました。昨年も、大雨や台風等で、全国各地で大きな被害を受けたことは記憶に新しいところでもあります。



土のう作りを体験

等の作業を行っていました。現在各市町村において、少子高齢化が急速に進み、地域を支える「大人」が減少する中で、新たな地域防災の担い手として中学生が注目されています。本校では、中学生が、何を、どのように関わっていけるのかについて生徒と自主防災組織の方が見交換をし、町が主催する防災訓練や、各地区の防災訓練に生徒が参加することで、実際に土のう作りや、担架の使い方、逃げ遅れた方の安否確認方法など様々なことを学んできました。活動を終えての生徒との意見交換の場では、「今までは守ってもらう側だと思っていた



担架の使い方の説明を聞く

が、自分たちでも出来ることがあると知った」など、頼もしい意見をたくさん聞くことができました。このような活動を通して、生徒たちと地域住民との関わりが深まり、日頃の防災意識が向上することで、周りの大人や町民全体の防災意識が高くなるきっかけになればと思います。新年早々防災の話ではありましたが、新しい年だからこそ、今一度家族で話し合ってみてはいかがでしょうか。

❖ 成人を迎えての決意 ❖

成人を迎えての決意



東四王 平出 雄哉

はじめに、下諏訪町を離れ大学へ進学した私が、成人という人生の節目にこのような貴重な機会をいただけたことに感謝したいと思います。

私は高校を卒業後、上京し都内の大学へ進学しました。日本各地から人が集まる東京で、異なる地で生まれ育ち、異なる考えや価値観を持った人たちと出会いたい。高校時代、そう思い立つたことがきっかけとなりました。幼い頃興味を持った機械の分野で、気心の知れた仲間たちと共に勉学に励み、充実した日々を過ごしています。都内で生活を始めてまず感じたことは、やはり人の多さでした。

通りは昼夜問わず人が行き交い、主要な交通手段である電車は常に人でごった返しています。これだけの人がいるのだから、自然に人との繋がりも増えていくのだろうと私は思っていました。

しかし都会での人と人との繋がりにはより希薄なもののように思えました。イヤホンで耳を塞ぎ、携帯の画面を見つめ、その画面の向こう側にいる誰かを気にする人たちを、日々の暮らしの中で目にするのが多かったからかもしれません。そして気が付けば、私自身もその中の一人になっていたように思います。

通信手段の発達により、人同士の繋がりが薄れゆく時代の中で、私は「今自分が持つ人との繋がり、これからある人との出会い」を大切にしたいと思います。このことを、私の成人を迎えての決意とし、これからの生活に励んでいきたいと思っています。

もう20歳



東山田 中島 優香

「もう成人式を自分が迎える年か」というのが本音で、まだ二十歳という実感が湧きません。成人になるとはどういうことか。社会の一員になる、責任が自身に問われるなどを思い浮かべます。それと同時に、今まで周りの大人に支えられて不自由なく過ごすことができてこられたことを実感します。

この20年間を振り返ってみると、あつという間でしたが、色々ありました。無邪気に何も考えずにはしゃいだこと、本気になった部活動、親と沢山喧嘩けんかしたこと、友だちに支えてもらえたこと…、語り出せばキリがないですが、全てのことか今の私に繋がり成長させてくれたのだと考えます。まだまだ未熟な部分も多いですが、この20歳という節目を境にまた新たな気持ちでスタートしたいと思っています。社会の一員の中で、沢山のチャレンジをして考えて悩んで更なる成長を目指して日々を過ごしていきたいです。

私は今、看護学校に通っています。難しいこと、大変なことが多々ありますが、国家試験に合格し実際に病院で働くことが楽しみです。社会へ出て働くこと、生きていくにあたって沢山の壁にぶつかると思います。一つ一つ乗り越えていき、素敵な看護師になり、人と関わる中で温かさを伝え、広めていきたいです。

成人という自覚と責任を持ち、社会に踏み出そうと思っています。

「決断力と行動力」

矢木西 林 あかね



2019年12月25日。20回目の誕生日を迎えた。二十歳^{ハタチ}ってなんて魅力的な響きだろう。そう感じる一方で思い描いていた二十歳と現状とのギャップにちよっぴり切なくもなる。

大学二年生になった。一日平均3コマの授業と人並みに家事をこなしつつ、つけ麺屋でのアルバイトはどんくさい私を日々鍛え上げる。そんな日常の中で最近では将来について考えることが増えた。残り2年と少しの大学生活をどのように過ごし、卒業後はどこでどうやって生きていくのか。高校生の頃と今とは考え方が少しずつ変わってきたように思う。新しい環境は私に新たな価値観をもたらしたのだった。少し立ち止まって悩むだけ悩んでみる。そんな時間が今の私には必要な気がするのだ。

夢や目標に向かって歩みを止めない友人のまっすぐさを羨ましく思う時もある。「本当にこれで良かったのかな。間違っていないかな」と不安に押しつぶされそうになることもある。それでもこの道を選択したからこそ学べたことがある。出会えた人がいる。あの時もしも別の道を選択していたら…と思うと怖くなるくらいに今が大切で大好きだ。時に慎重に、時に豪快に。自らの意思で道を切り開いていける、そんな人間でありたいと強く思う。

最後に、お父さん、お母さん。あなた達が注いでくれたたっぷりの愛情とうちの美味しい鰻で娘はこんなに大きくなりました。ありがとう。これから負けないくらい大きな愛でお返ししていくね。

二十歳を迎え

東町下 細谷 優一



今年、二十年という年月は短くいまだに成人したという実感はわかないが人生の節目を迎え大人の仲間入りをする。

現在、私は以前から憧れていた東京で一人暮らしをしている。いざ暮らしてみると、色々と感じづいたことがある。毎日当たり前のよう感じていた豊かな自然、綺麗な^{きれい}空気、素晴らしさに下諏訪町を離れて気づかされた。また、家事、部活、授業、アルバイトの両立の大変さを感じ家族の有難さに改めて気づかされた。

私は今大学で機械工学を専攻している。大学の教授や友人、先輩、卒業生、社会人の人たちの話を聞き、自分たちが今学んでいる学問が世の中にある物や機器にどのように役立っているのかを知ることができ、単に学ぶだけでなく将来のことを考え何が必要かを知ることができた。また、それだけでなく、自分の物事を考える視野がいかに狭かったのかを自覚させられた。それと同時に、今までの人生の中でどれほど多くの人に支えられ助けられてきたのか、そして、それがどんなに恵まれた環境だったのかと実感し、とても感謝している。

これから成人して大人になるにあたり、今まで助けられて来たことへの感謝を忘れず、今度は自分が世の中に貢献できるように、責任感を持ち、今できることに専念し、人としても技術者としても成長し続けていきたい。

ぼくの希望、私の願い…今年がんばりたいこと

下諏訪南小学校 四年 二組

新年に向けて、町民の皆さんに仲間たちみんなの声を届けたい。そんな編集委員会の要望に、チーム下諏訪南小四年二組の皆さんが応えてくれました。下諏訪の子どもたちを代表しての声としてご覧いただければ幸いです。



担任 千野裕子先生



秋宮スケートリンク「氷上祭」のお知らせ



日時

令和2年1月26日（日）

午前9時～正午まで（午前8時30分～受付開始）

※悪天候またはリンクの状態が万全でない場合は中止とします。
中止の場合は7時30分に防災無線で放送します。

場所

秋宮スケートリンク

持ち物

帽子、手袋、スケート靴

※スケート靴はなくてもOK！帽子、手袋の着用は必須です。

参加無料
申込不要



そり引きゲーム



下駄スケート体験

ほかにも、障害物競走や氷上ボウリングなど
楽しい種目が盛りだくさん！

ぜひご参加ください♪

駐車場の用意はございませんのでご了承ください。

問い合わせ先 下諏訪体育館(0266-27-1455)

1月6日

お正月の遊びで思い出すのは、子どもの頃やった凧揚げです。祖父に買ってもらった和凧を揚げて見たけれども、うまく揚がらないのでとてもがっかりしていると、祖父から「和凧は自分で工夫しないと駄目だ」と言われました。そこで祖父の指導のもと凧の尻尾の位置や太さや長さ、糸目の調整を少しずつ変えては揚げてみることを何度も繰り返してみました。そうしてその結果、自分の体が引つ張られるほど高く揚がった時は本当にうれしくて、達成感でいっぱいになりました。

祖父のお陰もあってか物作りが好きになった私は、昨年からは3Dプリンターを使い趣味の工作に使う部品などを作り始めました。3Dプリンターといってもスイッチ一つで簡単に造形ができるものではなく、形によっては一度では成功しません。最初は失敗続きでなんだかわけのわからない不思議な物体ができてしまい、思い通りにいかず、自分の力ではできないのかなと思いつつ嫌になりました。

ですが、祖父の「あきらめずに試してみる」という言葉を思い出し、その後何回か試行錯誤してうまくできた時の達成感は、やはりいくつになっても子どもの頃のように嬉しいものでした。

そんなわくわくした気持ちは日常生活にもやる気を与えてくれ、あのときにうまくいかなかったら、やめてしまわなくて本当に良かったと思いました。

新しい技術がどんどん出てくる今、私は今年なにを始めようかと考えながらわくわくします。みなさんは今年どんなことを始めようと考えていますか？

（相澤 崇）